

II. 追加調査結果

1. 従来琵琶湖に生息していなかった魚類の採捕記録

井出充彦

1994年度、1995年度を通じて漁業者より採捕報告のあった、従来琵琶湖に生息していなかった魚類の記録を以下に示す。

1)ガーパイクの一種 1994年5月21日、大同川河口部にて能登川町漁協組合員が刺網により1尾を採捕した。全長384mm 体長325mm 体重121g

なお、前出の内湖の調査でも、西の湖において1尾採捕されている。

2)クラウンナイフフィッシュ 1994年9月22日、愛知川河口部にて能登川町漁協組合員が刺網により1尾を採捕した。全長440mm 体長412mm 体重744g

3)クルマサヨリ 1995年11月20日から12月11日までに下表のとおり合計9尾がえりで採捕された。

年月日	漁協	全長(mm)	体長(mm)	体重(g)
95/11/20	志賀町	143	102	4.1
95/11/22	近江八幡市	140	111	4.9
95/11/22	守山市	128	89	2.2
95/11/22	守山市	132	93	2.6
95/11/22	守山市	123	87	2.0
95/12/01	堅田	147	106	4.7
95/12/01	朝日	140	127	3.9
95/12/08	守山市	160	117	6.1
95/12/11	南浜	118	85	2.2

4)コクチバス 1995年10月26日、百瀬漁協マキノ町新保浜のえり(ピフマス特別採捕用)で1尾採捕された。全長386mm 体長322mm 体重900g

これらのうち1)と2)は観賞魚の愛好家が放流したものと思われる。1)は北アメリカに分布する種で、大量に放流されていた場合繁殖する可能性が考えられたが、以降、採捕された記録はない。2)は熱帯魚で繁殖する可能性は低い。3)は汽水域を好む魚種で、淡水域にも侵入することであるが¹⁾、繁殖するかどうかは不明である。漁業には直接の影響は少ないと思われるが、今後も動向把握は必要と思われる。侵入経路は、この魚種のみを放流することは考えにくいので、何かの放流種苗に混入して来た可能性が考えられる。4)は各地で繁殖しているオオクチバス同様、遊漁用に放流された可能性が最も高い。他県の湖ではすでに繁殖しているところがあり²⁾、現在も無差別に放流されている模様である。琵琶湖

でも繁殖する可能性が考えられ、琵琶湖の生態系への悪影響が懸念される。また、河川でも生息可能であるので、繁殖した場合、河川漁業に対して大きな影響を与えることが考えられ、今後も実態調査が必要である。

【文献】

- 1) 瀬能宏(1989): クルメサヨリ, 日本の淡水魚, (川那部浩哉・水野信彦), 424, 山と溪谷社, 東京.
- 2) 林公義(1993): コクチバス, 日本産魚類検索全種の同定, (中坊徹次), 651, 東海大出版, 東京.

(追記)

本調査終了後においても、下表のとおりコクチバスや熱帯魚等の元来琵琶湖に生息していなかった魚類が相次いで採捕されている。

採捕年月日	魚種	漁協・採捕者	漁具	地点詳細	尾数	全長(mm)	体長(mm)	体重(g)	備考
96/4/末	コクチバス	朝日漁協	えり	湖北町延勝寺	1	388	327	1,040	
96/07/02	ニードルガー	百瀬漁協	えり	マキノ町知内	1	158	142	7.8	観賞魚
96/07/08	ブラックテトラ	水試	張網	水試港湾内 (彦根市)	1	51	39	2.6	観賞魚
96/09/16	アストロノータス (オスカー)	一般	釣り	宇曾川河口付 近(彦根市)	2	295	235	665	観賞魚
96/09/17	アストロノータス (オスカー)	一般	タモ	宇曾川河口付 近(彦根市)	2	294	228	675	
96/10/21	ボラ	百瀬漁協	マスえり	マキノ町知内	5	248	202	200	
						259	213	222	
						271	225	270	
						245	202	206	
						-	-	-	
96/10/05	ブレコ的一种	山田漁協	刺網	草津市山田	1	283	220	230	観賞魚
96/11/21	ボラ	守山市漁協	えり	琵琶湖大橋付 近北側	1	207	173	110	
96/11/22	ボラ	守山市漁協	えり	琵琶湖大橋付 近北側	2	252	207	220	
						259	218	230	
96/11/25	ボラ	能登川町漁協	えり	能登川町	1	218	177	104	
96/11/25	ボラ	沖島漁協	えり	沖島町	1	198	160	75	
96/11/26	コクチバス	西浅井漁協	えり	西浅井町	1	359	295	819	